

(105)

氏名(生年月日)	カネ 兼	ヤス 安	ユウ 祐	コ 子
本 籍				
学 位 の 種 類	博士 (医学)			
学位授与の番号	乙第1451号			
学位授与の日付	平成 6 年 3 月18日			
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当 (博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	子宮体癌の根治的放射線治療と線量評価の基準点設定についての臨床的検討			
論文審査委員	(主査) 教授 重田 帝子 (副査) 教授 武田 佳彦, 高倉 公朋			

## 論 文 内 容 の 要 旨

### 目的

子宮体癌に対する根治的放射線治療は未だ確立されているとは言い難い。本研究は当科における体癌の根治的放射線治療成績を分布し、放射線治療の有用性を確立するための線量評価法について検討を行った。

### 対象および方法

対象は1969～1991年の23年間に当科で根治的放射線治療を施行した子宮体癌15例で、全例腺癌であった。年齢は46～82歳(63±12.0歳)、病期はI期5例、II期4例、III期4例、IVa期2例であった。

治療方法は外部照射と腔内照射を併用し、総A点線量は87.2±19.5Gyであった。

つぎに子宮体癌に対する根治的放射線治療の線量評価の基準化をはかるため、基準点I(子宮底部中央先端)・II(左右子宮卵管角)・III(子宮中央の左右外側壁)を設定し、評価を行った。

### 結果

放射線治療終了直後の一次効果はCR(著効)10例、PR(有効)4例、NC(不変)1例であり、CR率は66.7%、奏効率(CR+PR率)は93.3%であった。再発は4例で、部位は骨盤内が1例、傍大動脈リンパ節が3例(1例腹膜播種合併)であった。5年累積生存率は全体で59.3%であり、病期別ではI・II期100%と良好であったがIII・IV期では5年以上の生存例は認められなかった。Kottmeier分類によるI～III度の晩期障害は、直腸障害4例(30.8%)、膀胱障害2例(15.4%)に認められた。

また体癌の根治的放射線治療の線量評価のために設

定した基準点を臨床症例に応用し、子宮体癌腔内照射時の基準化に役立つことを認めた。

### 考察

当科での体癌の根治的放射線治療において5年累積生存率は59.3%と良好であった。しかし現在の腔内照射は子宮底部の線量配分改善のために、2本のManchester式 ovoid applicator を子宮腔内へ挿入し、線量配分として2:1:1の子宮底部にウエイトを持たせた線源の配列で実施している。このようにして実際に行われた1例は“逆西洋梨型”で子宮の輪郭に沿った良好な線量分布が得られた。また本研究で子宮筋層の厚さをCTを用いて測定し、設定した基準点は子宮筋層の厚さが非対称である場合や治療により子宮が縮小した場合にも正確に子宮の外輪郭が表示され、個別化治療に適した基準点と考えられた。

### 結論

子宮体癌に対する根治的放射線治療は有効であり、また子宮体癌の放射線治療の線量評価のために設定した基準点は、腔内照射時における高い有用性が示唆された。

## 論文審査の要旨

子宮体癌は近年増加の傾向にあり、早期診断や至適治療法の確立が望まれているが、子宮体癌に対する根治的放射線治療および線量評価法は未だ確立されていない。

本研究は、1969年から1991年までの23年間に当科で根治的放射線単独治療を施行した子宮体癌15例の成績を検討し、5年生存率は59.3%と良好であった。しかし従来の tandem と ovoid を用いた腔内照射法では、子宮底部の線量分布が不良であることから、Freed および田崎らの選択点を参考に基準点を設定した。すなわち、子宮底中央先端を I，左右子宮卵管角を II<sub>L</sub> II<sub>R</sub>，子宮中央の左右外側壁を III<sub>L</sub> III<sub>R</sub> の基準点として子宮筋層の厚さを CT を用いて測定して評価を行った結果、これらの基準点は正確に子宮外輪郭を表示されることが確認され、個別化治療に適した基準点と考えられ、体癌腔内照射法における高い有用性が示唆された。

学術上、臨床上価値ある論文である。

### 主論文公表誌

子宮体癌の根治的放射線治療と線量評価の基準点設定についての臨床的検討

東京女子医科大学雑誌 第64巻 第1号  
36-47頁 (平成6年1月25日発行)

兼安祐子

### 副論文公表誌

- 1) リンパ節転移：腹部，骨盤領域—子宮頸癌・放射線治療の立場より—。画像診断 12 (12)：1433-1441 (1992) 喜多みどり，兼安祐子，大川智彦
- 2) 子宮頸癌・手術後の放射線治療の役割。癌の臨床 37 (14)：1679-1685 (1991) 喜多みどり，大川智彦，田中真喜子，兼安祐子，唐沢久美子，磯部まどか，吉川香澄
- 3) 子宮頸癌Ⅲ期に対する放射線治療成績。Karkinos 3 (4)：403-408 (1990) 大川智彦，喜多みどり，田中真喜子，兼安祐子，唐沢久美子，磯部まどか，塩浦宏樹
- 4) 子宮頸癌に対する動注化学療法—とくに放射線治療との併用における検討—。臨婦産 43：1187-1189 (1989) 大川智彦，磯部まどか，塩浦宏樹，唐沢久美子，兼安祐子，田中真喜子，喜多みどり
- 5) 乳房温存療法における乳房照射法の実際。乳癌の臨 7 (2)：200-208 (1992) 喜多みどり，大川智彦，唐沢久美子，兼安祐子，田中真喜子，平林久枝
- 6) 根治的放射線治療を中心に。Karkinos 4 (5)：535-538 (1991) 大川智彦，喜多みどり，田中真喜子，兼安祐子，唐沢久美子，磯部まどか
- 7) 骨転移に対する放射線治療の寄与—とくに半身照射について—。乳癌の臨 8 (3)：349-356 (1993) 喜多みどり，大川智彦，唐沢久美子，兼安祐子，田中真喜子
- 8) 術中照射法の現況。Karkinos 5 (4)：413-419 (1992) 喜多みどり，大川智彦，田中真喜子，兼安祐子，唐沢久美子
- 9) 直腸癌—放射線治療を中心に—。癌の臨 37 (12)：1399-1403 (1991) 大川智彦，喜多みどり，田中真喜子，兼安祐子，唐沢久美子，浜野恭一
- 10) Quality of Life からみた放射線治療。癌と化療 17 (4)：895-901 (1990) 大川智彦，喜多みどり，田中真喜子，兼安祐子，唐沢久美子，磯部まどか，塩浦宏樹